

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹内徹 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「私たちの暮らしと憲法」というテーマのもとで、以下の到達目標を掲げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法と私たちの暮らしとの関わり合いを理解することができる。 ・日本国憲法を通して、政治と私たちの暮らしとの繋がりを理解することができる。 ・日本国憲法が目指している、国のあり方や、私たちの暮らしのあり方について理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>憲法には、各種の基本的な人権と政治の基本的な枠組みが定められている。そこには、その国のそれまでの歩み（歴史）が反映されていると同時に、将来に向けた決意（目指すべき姿）が示されている。このことを意識しながら、この授業では、重要条文を取り上げて日本国憲法についての理解を深めていく。また、憲法は私たちの暮らしを支える土台となるものであるため、日々の生活と憲法との関わりについても、身近な事例を紹介しながら学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 憲法の歴史と役割</p> <p>第2回： 日本国憲法の基本原理</p> <p>第3回： 人権総論・幸福追求権</p> <p>第4回： 法の下での平等</p> <p>第5回： 精神的自由（1）内心の自由・信教の自由</p> <p>第6回： 精神的自由（2）表現の自由</p> <p>第7回： 経済的自由・人身の自由</p> <p>第8回： 社会権</p> <p>第9回： 参政権</p> <p>第10回： 人権のまとめ・統治機構総論</p> <p>第11回： 国会と立法</p> <p>第12回： 内閣と行政</p> <p>第13回： 裁判所と司法</p> <p>第14回： 財政・地方自治・改正</p>			
<p>テキスト</p> <p>毛利透『グラフィック憲法入門（第2版）』（新世社、2021年）</p>			

参考書・参考資料等

授業中に適宜、提示・配布する。

学生に対する評価

小テスト（×14回）：80%、小レポート（×2回）：20%

授業科目名： スポーツの理論と実技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 和文、大金朱音
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標：スポーツ科学や体育理論を基に、スポーツ・運動実践の意義や文化的な側面を理解する。また、スポーツ・運動実践を通じて、運動スキルや戦略思考、スポーツマンシップ、協調性を身につける。これにより、生涯にわたって健康的で文化的なスポーツライフを実践する力を養う。			
授業の概要：スポーツの基礎的な理論と実技の学びを通して、生涯にわたって健康的・文化的に様々なスポーツを実践することへの理解を深める。理論の授業では、スポーツ科学や体育理論の観点から、スポーツ実践の意義や効果、文化としてのスポーツの意義等を理解する。実技の授業では、ゴール型やネット型球技などのチームスポーツの実践を通して、運動スキル、戦略を考える力、スポーツマンシップ、協調性などを身につけ、体力と健康を維持する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：【理論1】ガイダンスとスポーツ科学の概要</p> <p>第2回：【理論2】運動と生活習慣病の予防</p> <p>第3回：【理論3】運動と女性の健康</p> <p>第4回：【理論4】運動と心の健康</p> <p>第5回：【理論5】熱中症の予防とスポーツを取り巻く環境</p> <p>第6回：【理論6】世界のスポーツ文化と歴史</p> <p>第7回：【理論7】スポーツ科学に関する試験、まとめ</p> <p>第8回：【実技1】ネット型スポーツのルールとマナー</p> <p>第9回：【実技2】ネット型スポーツのスキルと実践</p> <p>第10回：【実技3】ゴール型スポーツにおける戦略</p> <p>第11回：【実技4】フィットネスやトレーニングの実践</p> <p>第12回：【実技5】チームスポーツにおけるマナーおよび協調性</p> <p>第13回：【実技6】チームスポーツにおけるスポーツマンシップ</p> <p>第14回：【実技7】スポーツ実技に関する試験、まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト：なし			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>東京大学身体運動科学研究室（編集）、2022、身体運動・健康科学ベーシック、東京大学出版会</p>			

中央大学保健体育研究所（著，編集）、2019、健康スポーツ50講、中央大学出版部
その他、資料はmanaba等を使って配布する

学生に対する評価

理論に関する試験50%、実技に関する試験50%

授業科目名： 英語コミュニケーションA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：尾崎志津子 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 英語の基本的な文法や構文に関する知識を身につけている。 (2) 平易な英文を英語のまま正しく読むことができる。 (3) 基本的な日常英会話を正しく聴き取ることができる。			
授業の概要 テキストの短い英文エッセイと多様な練習問題に取り組むことにより、リーディング力を強化し、英文法の基礎を確かなものにする。さらに、各Unitに収録されている日常英会話を正しく聴き取る練習を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の説明）、Unit 1 The Royal Family（現在時制） 第2回：Unit 2 The Beatles（過去時制） 第3回：Unit 3 Very Cold!（進行形） 第4回：Unit 4 Euro Money（助動詞） 第5回：Unit 5 To Your Health（完了形） 第6回：Unit 6 Recycling（冠詞、代名詞） 第7回：Unit 7 The UK（名詞） 授業内試験① 第8回：Unit 8 A Quiet Life（形容詞・副詞） Unit 9 My Company（比較） 第9回：Unit 10 Advertising（不定詞・動名詞） 第10回：Unit 11 Business Trips（前置詞・接続詞） 第11回：Unit 12 Get it Cleaned（使役動詞・知覚動詞） 第12回：Unit 13 A Storm（受動態） 第13回：Unit 14 The Media（関係詞） 第14回：Unit 15 Sightseeing（仮定法） 授業内試験②			
テキスト Terry O'Brienほか『英語総合インディケーター<初級>』南雲堂			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 試験① 35% 試験② 35% 課題 30%			

授業科目名： 英語コミュニケーションB	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：HIGA, James 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 基本的な日常英会話ができる。 (2) 日常生活を話題にした英語の短い文章が書ける。 (3) 英語による短いプレゼンテーションができる。			
授業の概要 受講生は、簡単で実践的な英会話を身につけ、学習するトピックに関連する内容の短い文章を英語で書く技術を学ぶ。日常英会話、ライティング、およびプレゼンテーションの基礎的なスキルを習得する。			
授業計画 第1回：イントロダクションとウォーミングアップ 第2回：Unit 1: Saying where you are from 第3回：Unit 1: Asking and giving personal information 第4回：Unit 2: Talking about your family 第5回：Unit 2: Describing friends and family 第6回：Unit 3: Talking about your home 第7回：Unit 3: Talking about furniture 第8回：中間試験 (Mid-semester test) 第9回：Unit 4: Talking about favorite things 第10回：Unit 4: Saying how you use technology 第11回：Unit 5: Talking about weekday and weekend activities 第12回：Unit 5: Talking about routines 第13回：Review & Catch up 第14回：期末試験 (Final test) : Reviewing, final writing and speaking tests			
テキスト <i>Evolve Student's Book with Digital Pack 1A</i> (ISBN978-1-009-23117-0)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 会話／プレゼンテーション／積極性 30%；ライティング課題 30%；中間試験（20%）＋期末試験（20%） 40%			

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田耕治、齊藤（竹中）由香、遠藤潤一 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工智能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>コンピュータの知識・情報倫理を学習するとともに、次の情報処理の知識や技術を修得している。データ・AIが社会で利活用されていることを説明できる。表計算機能を使って、データを適切に解析できる。収集した情報から考えをまとめ、プレゼンテーションをすることができる。ワープロ機能を使って文書を作成できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>高度に情報化の進んだ現在、私達はさまざまな情報やデータ、AIなどの技術が活用された社会の中で生活している。これらは正しく利用すれば生きていくうえでとても役立つ知恵を与えてくれるはずで、そのためには情報やデータに関する基本を学ばなくてはならない。本授業では数理・データサイエンス・AIについての基礎的な学習を行いつつ、パソコンの基本としてのワープロ機能・表計算機能・プレゼンテーション機能の基礎的な学習も行う。さらにe-ラーニングとして情報倫理を身につけたり、タイピングスキルの向上も目指す。これらは大学においてだけでなく、卒業後の社会においても必要な知識と技術となる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コンピュータの基礎知識・操作法と情報倫理</p> <p>第2回：文書作成／基本文書の作成【課題1】</p> <p>第3回：文書作成／表を含む文書【課題2】</p> <p>第4回：社会でのデータ・AIの利活用【課題3】</p> <p>第5回：データリテラシー／Excelの基本操作と時系列データの可視化【課題4】</p> <p>第6回：データリテラシー／平均の算出とその可視化【課題5】</p> <p>第7回：データリテラシー／標準偏差の算出とその可視化【課題6】【課題7】</p> <p>第8回：データリテラシー／大量のデータを扱う方法【課題8】</p> <p>第9回：データリテラシー／基本統計量の算出と箱ひげ図【課題9】</p> <p>第10回：データリテラシー／度数分布表とヒストグラム【課題10】</p> <p>第11回：データリテラシー／散布図の作成と相関係数の算出【課題11】</p> <p>第12回：データリテラシー／定性データの扱い方とクロス集計【課題12】</p> <p>第13回：データ・AIを扱う上での留意事項、プレゼンテーション／PowerPointの基本操作</p> <p>第14回：プレゼンテーション／データ・AIに関するオリジナルスライド原稿の作成【課題13】</p>			
テキスト			

AI データサイエンスリテラシー入門（吉岡剛志編著 森倉悠介・小林領・照屋健作共著，技術評論社）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

課題の提出(85%)， e-ラーニング(情報倫理及びタイピング:15%)

授業科目名： 学校と教育の歴史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：澤田哲 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育の基本的概念・理念にはどのようなものがあり、教育の歴史・思想において、それらがどのように現れてきたかを知り、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>古代オリエントから現在に至るまでの学校と教育の歴史を通史で学ぶ。常に、今日的な教育課題に引き寄せながら考える機会を設け、歴史的事項の意味をより深く理解できるようにするとともに、現在の教育課題に対してその歴史的経緯を踏まえた上で考察することができるようになることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：学校の始まり（古代オリエント）及び学校と教育の歴史を学ぶ意味 第2回：古代ギリシャ・ローマの学校と教育 第3回：中世の学校と教育 第4回：近代市民革命と国民国家の形成 第5回：子どもの発見と近代家族 第6回：近代学校と義務教育 第7回：子どもの世紀・中間レポート 第8回：日本における古代から近世までの学校と教育 第9回：近世社会と学びの文化 第10回：近代学校の出発 第11回：明治公教育と教育勅語 第12回：大正期から昭和初期の教育 第13回：戦後の教育 第14回：現代の教育</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定はしない。必要に応じて、授業時に資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森川輝紀・小玉重夫編（2012）『教育史入門』放送大学教育振興会 ・石村華代・軽部勝一郎（2013）『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房 			

- ・木村元・汐見稔幸（2020）『教育原理 アクティベート教育学1』ミネルヴァ書房
- ・汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

中間レポート（30％）、定期テスト（50％）、毎回の授業後に提出する小レポート（20％）

授業科目名：教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山田貞二 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>現在、大学で養成教育を受けることの意味を、教員養成制度の成立過程や教員の職務や研修内容を通して理解する。特に、実践的指導力の育成、「教師の資質向上」という政策課題が叫ばれているが、教職に就いた後の自己研鑽の積み方との連続性の中で捉えた場合、大学での養成教育はその教職人生の土台となるべきものである。それを理解した上で、現在の大学での学習への取り組み方を考えていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 教員の存在意義をつかむ</p> <p>第2回：教師の心に響く名言をもとに「理想の教師」を考える</p> <p>第3回：教職の職業的特徴を理解する</p> <p>第4回：戦後の教職観の変遷をとらえる</p> <p>第5回：今求められる理想の教師像をとらえる</p> <p>第6回：学習指導要領から見る理想の教師像をとらえる</p> <p>第7回：教員に求められる基礎的資質能力を国語&社会授業から把握する</p> <p>第8回：教員に求められる基礎的資質能力を数学&理科授業から把握する</p> <p>第9回：教員に求められる基礎的資質能力を総合的な学習の時間&特別活動から把握する</p> <p>第10回：幼児、児童及び生徒への指導の全体像を理解する</p> <p>第11回：教員の校務分掌から教師の業務・専門性とチームでの学校づくりの重要性を理解する</p> <p>第12回：学び続ける教師の実際を知り、教師の在り方をとらえる</p> <p>第13回：教員研修の意義及び制度上の位置づけを知り、専門職としての在り方をとらえる</p> <p>第14回：教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障を理解する</p> <p>定期試験：実施しない</p>			
テキスト なし			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>学習指導要領総則（小・中・高等学校）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート70%、平常点評価30%</p>			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：原田 琢也 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項について基礎的な知識を身につけ、それらに関連する課題を理解することができる。学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につけている。			
授業の概要 現在の教育課題が生み出されている社会的・制度的背景を理解し、その課題を解決するための方策について考える。授業では、ペアまたは小グループでの話し合い活動を重視し、学生の主体的な授業参加を求める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、社会現象としての教育・学校現象 第2回：近代学校の基本原理 第3回：フォーマル・エデュケーションとしての学校 第4回：法と学校文化（「学校と地域の連携」「学校安全への対応」も含む） 第5回：学校文化とは何か 第6回：ニューカマーの子どもたち 第7回：ジェンダーと教育 第8回：日本の障害児教育の軌跡 第9回：日本のインクルーシブ教育の課題（「学校と地域の連携」「学校安全への対応」も含む） 第10回：同和教育の軌跡 第11回：学力と社会背景 第12回：学校改革の実践（日本）「効果のある学校」を中心に（「学校と地域の連携」「学校安全への対応」も含む） 第13回：学校改革の実践（海外）（「学校と地域の連携」「学校安全への対応」も含む） 第14回：まとめ、期末テスト			
テキスト 原田琢也・伊藤駿編著『インクルーシブな教育と社会—はじめて学ぶ人のための15章—』ミネルヴァ書房（ISBN：978-4-623-09655-8）			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

期末テスト 80%

コメントシート 20%

授業科目名： 発達と学習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三宅 英典 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について取り上げ、発達段階に応じた心理的特性の基礎的な知識を身につける。そのうえで、幼児、児童及び生徒の学習活動を支える指導の基礎となる考え方を示し、例示できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、教育に関わる私たちの心身の発達過程や学習の過程、教員としての資質や能力について扱う。具体的には、学習者がこれまで経験してきた日常場面や教育現場のなかで、どのような心の働きがあったのか、またそれはどのように発達してきたのかを扱う。そのうえで、どのようなことを思い、感じながら育ってきたのかに着目しながら、教育者という立場からの視点についても考察を行う。学習者には、常に自身の経験と結びつけた理解を図ることを求める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：心理学を学べば心を読めるようになる？（心理学とは）</p> <p>第2回：心の働きだけに注目しても心理学は学べない？（発達と学習の基礎）</p> <p>第3回：頭の中でイメージできるのはどうして？（イメージの発達）</p> <p>第4回：いつから言葉を話せるようになった？（言語発達）</p> <p>第5回：小学校に入学するまでに学んでいること（素朴概念・インフォーマルな学習）</p> <p>第6回：「人の気持ちがわかる」って何だろう？（社会性の発達）</p> <p>第7回：「私って何なんだろう？」そんな悩みはありませんか？（パーソナリティの発達）</p> <p>第8回：学習＝勉強だと思いませんか？（学習とは）</p> <p>第9回：「やる気」って何だろう？本当に必要なの？（動機づけ）</p> <p>第10回：テストだ！ピンチだ！覚えなきゃ！（記憶のメカニズム）</p> <p>第11回：困ったことを解決するなかで育つ私たち（問題解決と専門家としての成長）</p> <p>第12回：これまで学校はどんなグループでできていただろう？（友人や集団に関する研究）</p> <p>第13回：よい授業ができる先生になるために（学習指導と教師の資質）</p> <p>第14回：学校に馴染めない…そんな時に起こること（学校適応）</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>あなたの経験とつながる教育心理学（杉村伸一郎監修・三宅英典編著、ミネルヴァ書房）</p> <p>参考書・参考資料等</p>			

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（55%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（45%）

授業科目名： 特別支援教育の理論と 方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：新谷洋介 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 ・特別の支援を必要とする子供の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ・特別の支援を必要とする子供に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ・特別の教育的ニーズのある子供の困難とその対応を理解する。			
授業の概要 特別支援教育に関する理念、制度、対象、関連する法規、システム等について学び、特別支援教育の基礎的知識を習得する。			
授業計画 第1回 特別支援教育の理念及び思想 第2回 特別支援教育の制度①：教育課程：通級による指導・自立活動等 第3回 特別支援教育の制度②：学習指導要領等 第4回 発達障害の理解と指導 第5回 知的障害の理解と指導 第6回 肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導 第7回 視覚障害の理解と指導 第8回 聴覚障害の理解と指導 第9回 ICT及び教材・教具の活用 第10回 特別の支援を必要とする子供に対する支援 第11回 個別の指導計画・個別の教育支援計画 第12回 特別支援教育コーディネーターや関係機関等の連携 第13回 特別支援教育の充実：インクルーシブ教育システム、特別な教育的ニーズのある子供に対して 第14回 期末課題とまとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『特別支援教育の基礎・基本 2020』国立特別支援教育総合研究所 著（ジアース教育新社）2020年			
学生に対する評価 小レポート・リアクションペーパー 40% 期末レポート・小テスト 60%			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：島田 希 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)</p> <p>本講義では、教育課程の編成やカリキュラム開発に関して、理論的・実践的に学ぶ機会を提供する。受講生には、講義における解説、事例紹介を通じて、教育課程の編成やカリキュラム開発について多面的に考察してもらいたい。また、受講者相互による事例の検討・作業等を通じて、それらを創造的に思考する営みにも従ってもらいたい。以上により、カリキュラムを創造する主体としての力量形成を目指してほしい。</p> <p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義と編成の方法、カリキュラムとその開発の概念について説明することができる。 ・わが国における教育課程編成、カリキュラム開発の変遷や今日的動向について説明することができる。 ・カリキュラム開発の様々な実践事例を分類・整理したり評価したりすることができる。 ・カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方やその意義を説明するとともに、自身の教科等の指導に活用できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>まず、教育課程やカリキュラムに関わる諸概念およびその編成や開発に関わる基本原理、教育課程が社会において果たしている役割等を整理する。次いで、学習指導要領改訂の変遷およびその社会的背景や教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成について、事例を交えて解説する。加えて、生徒・学校・地域の実態をふまえた中・長期的な教育課程の編成や今日的な教育課題に対応した取り組みについても解説する。さらに、カリキュラム評価の視点・方法を講ずる。最後に、カリキュラム・マネジメントに関する基本的な考え方やその意義を扱い、総括的に考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（キー概念に関する診断的評価と解説）</p> <p>第2回：教育課程とカリキュラムに関わる諸概念の整理</p> <p>第3回：教育課程編成とカリキュラム開発の基本原理</p> <p>第4回：社会に開かれた教育課程とその役割・機能</p> <p>第5回：学習指導要領改訂の変遷とその社会的背景1（中学校）</p> <p>第6回：学習指導要領改訂の変遷とその社会的背景2（高等学校）</p> <p>第7回：教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成1（教科を中心として）</p> <p>第8回：教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成2（総合的な学習の時間を中心として）</p> <p>第9回：生徒・学校・地域の実態をふまえた中・長期的な教育課程の編成</p> <p>第10回：今日的な教育課題に対応した教育課程の編成1（資質能力の育成）</p> <p>第11回：今日的な教育課題に対応した教育課程の編成2（社会的要請への応答）</p> <p>第12回：次世代のため教育課程の編成を目指す先導的な取り組み</p> <p>第13回：カリキュラム評価の視点と方法</p> <p>第14回：カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方やその意義</p> <p>定期試験：実施しない</p>			

テキスト

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）

中学校学習指導要領解説総則編（平成 29 年 7 月、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説総則編（平成 30 年 7 月告示、文部科学省）

各教科等の学習指導要領解説編

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

授業中におけるグループワークやミニレポート等の取り組み（30%）と期末レポート（70%）で総合的に評価する。その際、授業目標（到達目標）の達成度で評価する。

授業科目名：総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：白井 克尚 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「総合的な学習の時間の意義と目標内容についての基礎的理解を深める」をテーマとし、下記の到達目標を目指す。</p> <p>総合的な学習の時間の意義及び教育課程において果たす役割について、学習指導要領における目標並びに各学校で目標及び内容を定める際の考え方及び留意点をふまえ、教科を超えて必要となる資質・能力の視点から理解することができる。また、総合的な学習の時間の指導計画作成において、各教科との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性について、実践事例を通じて理解し、主体的・対話的で深い学びを実現するような単元計画を作成するために必要な基礎的な能力を身につけることができる。さらに、総合的な学習の時間の指導及び評価の考え方並びに実践上の留意点について、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てや、生徒の学習状況に関する評価の方法などを、単元計画の作成を通して体験的に理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、総合的な学習の時間の意義と目標内容についての基礎的理解を深め、総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントについての基礎的な方法論を習得することをめざしている。授業形態は、グループでの討議や話し合いによる演習方式である。授業計画は、自分の中にある総合的な学習の時間のイメージを問い直すことから、総合的な学習の時間の実践事例を通じて理解し、指導計画作成の考え方や指導及び評価の考え方並びに実践上の留意点について、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てや、総合的な学習の時間の単元計画の作成と模擬授業を体験的に行うことをねらいとしている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業のオリエンテーションー総合的な学習の時間のイメージ</p> <p>第2回：総合的な学習の時間の意義及び教育課程において果たす役割について 【教科を超えて必要となる資質・能力の育成の視点からの理解】</p> <p>第3回：総合的な学習の時間の目標及び内容について 【学習指導要領における総合的な学習の時間の目標についての理解】</p> <p>第4回：総合的な学習の時間の考え方及び留意点について 【各学校で目標及び内容を定める際の考え方及び留意点についての理解】</p> <p>第5回：「調査研究型」の総合的な学習の時間の実践事例 【探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについての理解】</p> <p>第6回：「総合表現型」の総合的な学習の時間の実践事例 【探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについての理解】</p> <p>第7回：「社会参加型」の総合的な学習の時間の実践事例 【探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについての理解】</p> <p>第8回：「企画実践型」の総合的な学習の時間の実践事例 【探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについての理解】</p> <p>第9回：「共同交流型」の総合的な学習の時間の実践事例 【探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについての理解】</p> <p>第10回：「自己形成型」の総合的な学習の時間の実践事例 【探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについての理解】</p> <p>第11回：総合的な学習の時間の単元計画の作成について</p>			

<p>【総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方についての理解】</p> <p>第12回：総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントについて</p> <p>【各教科との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性についての理解】</p> <p>第13回：総合的な学習の時間におけるアクティブ・ラーニングについて</p> <p>【主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することについての理解】</p> <p>第14回：総合的な学習の時間の指導及び評価について</p> <p>【生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点についての理解】</p> <p>定期試験：実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成30年8月告示 文部科学省）</p> <p>『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成30年8月告示 文部科学省）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加・貢献度（30%）、単元計画の発表内容（40%）、レポート（30%）</p>

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村瀬（安齋） 悟 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(授業テーマ)</p> <p>「豊かな人間形成と特別活動」 ―特別活動指導の基礎基本―</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育・地域・家庭における特別活動の特性、役割を理解することができる。 (知識・理解／思考・判断) 2. 特別活動における取組の全体計画と適切な評価について理解することができる。 (知識・理解／思考・判断) 3. 特別活動における集団活動（合意形成・意志決定）等、具体的な指導法を習得することができる。 (技能・表現) 			
<p>授業の概要</p> <p>(概要)</p> <p>特別活動は日本の教育活動「全人教育」の柱として位置づけられ、近年ではTOKKATSUとして諸外国から注目されている活動である。予測困難な社会を迎えつつある現代社会において、「社会の形成者」の育成を図ることは、子ども自身の自己実現とともに社会全体の豊かさを育むために欠かすことのできない教育活動である。</p> <p>本講義では、小中学校の実践事例及び学習指導要領を基に、特別活動の「学級活動／児童会（生徒会）活動／学校行事／クラブ活動」それぞれの内容・指導法について以下の点を中心に講義を行う。</p> <p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別活動の目標、特性、役割、課題、歴史的背景から、その教育的意義を理解する。 ○小中学校における具体的な活動としての学級活動、生徒会活動、学校行事の指導内容及び指導法を理解し、実践的な指導力を習得する。 ○「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の指導上の三つの視点を理解する。 <p>(授業形態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講義形式、プレゼンテーション形式、討論形式、小集団活動形式などの多様な活動形態を取り入れて、指導内容や指導法を実践的に考察する。 ○学校現場における特別活動の指導経験を活かして特別活動の指導の実践事例を紹介しながら実際の指導方法に関する実習を行う。 			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特別活動とは何か ―学校生活と特別活動― 2 特別活動の変遷 ―特別活動の温故知新― 3 特別活動の目標と教育的意義 ―社会の形成者としての資質・能力の育成へ― 4 学級活動の目標と内容 ―学級経営の要として― 5 学級活動の指導法と実践例 <学習指導案の書き方> 6 児童会・生徒会活動の目標と内容 ―主体的・自治的活動の可能性― 7 児童会・生徒会活動の指導法と実践例 <学級活動指導案提出> 			

8	学校行事の目標と内容 —学校文化の形成—	<授業者2名決定>
9	学校行事の指導法と実践例	
10	学級活動の模擬授業① —内容(1)「合意形成を図る話し合い活動の展開」—	<授業実践>
11	学級活動の模擬授業② —内容(2)(3)「意思決定を促す授業設計」—	<授業実践>
12	クラブ活動の目標と内容/部活動の展望 —”楽しさ”の創造—	
13	特別活動の全体計画と評価 —カリキュラム・マネジメント/地域・保護者連携の視点—	
14	特別活動とキャリア教育 —異年齢交流・異校種間連携—	
※定期試験あり		
テキスト		
	「小学校学習指導要領解説 特別活動編」	文部科学省 東洋館出版
	「中学校学習指導要領解説 特別活動編」	文部科学省 東山書房
参考書・参考資料等		
	・「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」	文科省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 文溪堂
	・「学校文化を創る特別活動 中学校・高等学校編」	文科省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東京書籍
学生に対する評価		
	・評価は、定期試験（50%）、平常点（50%）の配点とし総合的に評価する。	
	<定期試験の評価観点>	
	・特別活動の各分野の内容及び特性を理解している。	
	・学級や学校の実態に適した指導法を提示することができる。	
	<平常点の評価観点>	
	平常点は授業内レポート、学習指導案、受講態度等によって評価をする。	
	・毎時間提出する授業内レポート（各講義テーマの内容を理解している）	
	・学習指導案（授業目標に適した指導計画、ワークシートの作成）	
	・グループワーク（テーマ設定が教育現場を想定されている。発表が明朗でわかりやすく、聴き手に意図が伝わる。）	

授業科目名： 教育の方法及び情報通 信技術の活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川元洋 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法とそれに関わる指導技術の基礎を理解することができる。 ・ICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業設計をすることができる。 ・情報社会における課題や情報モラルの必要性について理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>児童・生徒に身につけさせるべき、これからの社会で必要となる資質・能力について理解し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業設計能力や実践力を、討論や学習指導案作成、模擬授業等を通じて身につける。また、ICTを活用することで従来は実現が困難であった個別最適化された学習が可能になることや、特別な支援を要する児童・生徒がICTを活用することにより効果的に学習できること等を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：これからの社会で必要となる資質・能力についての考察、情報活用能力の資質能力について</p> <p>第2回：主体的・対話的で深い学びを実現するための授業設計の方法、教育方法、ICTの活用方法、校務の情報化（統合型校務支援システムの活用を含む）</p> <p>第3回：授業目標を達成するための授業デザイン・個別最適な学びを実現するための指導法やそれを支える情報システム、情報セキュリティ</p> <p>第4回：ICTを活用した授業実践の先進事例・特別支援教育におけるICT活用の意義・保護者、地域、専門家等との連携に統合型校務支援システム等などのICTを活用している事例（カリキュラム・マネジメントも含む）</p> <p>第5回：ICTを活用した協働学習の場面を設定した授業の構想、統合型校務支援システム等に蓄積されたスタディログ等を使って、自己の学習を調整しようとする態度を育成するための手立てについて</p> <p>第6回：ICTを活用した授業の指導案作成演習（板書写真の撮影も含む）</p> <p>第7回：模擬授業(マイクロティーチング)で使用するデジタル教材の作成</p> <p>第8回：ICTを活用した授業の模擬授業（マイクロティーチング）</p> <p>第9回：情報モラル（情報セキュリティを含む）と情報教育の目標、資質・能力</p> <p>第10回：デジタル教材を使用した情報モラルの授業の構想</p> <p>第11回：新しい授業方法（質問作り「QFT」）</p>			

第12回：情報モラルの指導案作成演習

第13回：情報モラルの授業の模擬授業（マイクロティーチング）

第14回：前回の反省を活かした模擬授業（マイクロティーチング）

定期試験は実施しない。

テキスト

「無理なくできる学校のICT活用」（学事出版）

「GIGAスクール実現ハンドブック ～子どもたちの未来と社会への扉を拓く～」（教育開発研究所）

小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）（PDF版）

中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）（PDF版）

高等学校学習指導要領解説総則編（平成30年7月告示 文部科学省）（PDF版）

「教育の情報化に関する手引き」文部科学省（PDF版）

参考書・参考資料等

指導案ハンドブック（PDF版 京都府総合教育センターのWebサイトからダウンロード可能）

東京書籍「情報社会のモラル&リテラシー」（デジタル教材）

「統合型校務支援システムの導入のための手引き」文部科学省（PDF版）

その他、文部科学省、国立教育政策研究所、教育センターの資料 など（授業内で随時紹介する）

学生に対する評価

マイクロティーチングでの相互評価、グループ討議への貢献度 20%

授業の振り返りレポート 20%

ICTを活用した授業の指導案 20%、その指導案を用いた模擬授業 10%

情報モラルの授業の指導案 20%、その指導案を用いた模擬授業 10%

授業科目名： 教育の方法及び情報通 信技術の活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小田 哲也・長 谷川 元洋 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の基礎理論とそれに関わる指導技術の基礎を理解することができる。 ・情報通信技術の活用の意義とそれを活用できる基本的な授業設計をすることができる。 ・社会的背景の変化に伴う情報社会の課題や情報活用能力（情報モラルを含む）の指導法を理解できる。 			
授業の概要 <p>これからの社会を担う児童・生徒に求められる資質・能力を理解し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業設計能力や実践力を、討論や学習指導案作成、模擬授業等を通じて身に付ける。また情報通信技術を活用することで、個別最適な学びと協働的な学びが効果的に行われること、情報活用能力（情報モラルを含む）の方法等を理解する。</p>			
授業計画 <p>第1回：教育課程における進路指導・キャリア教育、生徒指導について 自身が小中高で受けた進路指導・キャリア教育、生徒指導の振り返り、高校受験、大学受験等の進路選択の経験の振り返り、今後のキャリアプラン、学校の進路指導・キャリア教育、生徒指導についてのグループ協議（担当：小田哲也）</p> <p>第2回：情報通信技術を活用した、主体的・対話的で深い学びを実現する授業モデルと教材利用（特別支援教育を含む）演習、外部機関との連携と学校のICT環境整備の理解（担当：小田哲也）</p> <p>第3回：育成する資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を活用した指導の理解とデジタル教材作成演習、学習履歴等を利用した指導と学習評価、情報セキュリティの重要性の理解（担当：小田哲也）</p> <p>第4回：ネットワーク型統合学習システム（遠隔・オンライン）による協働的な学びならびに統合型校務支援システムを利用した校務の推進の理解、情報通信技術を利用した指導の理解と学習指導の展開の作成演習（担当：小田哲也）</p> <p>第5回：教科横断型の情報活用能力（情報モラルを含む）育成と各教科等の特性に応じた指導事例の理解、児童が情報通信機器の基本操作を身につけるための指導法の工夫とその検討（グループ協議）（担当：小田哲也）</p> <p>第6回：教科の特性に応じた情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する学習指導案の作成演習とその検討（グループ協議）（担当：小田哲也）</p> <p>第7回：情報通信技術を活用した、個別最適な学びと協働的な学びや主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導案の作成と授業演習（一斉協議）（担当：小田哲也）</p> <p>第8回：スモールステップ法、先行オーガナイザー等の教育方法、協働学習の基本パターンThink-Pair-Shareや6つの協働学習モデルを活用した授業の設計方法（担当：長谷川元洋）</p> <p>第9回：これからの社会で必要となる資質・能力についての考察、主体的・対話的で深学びを実現するための授業設計方法（担当：長谷川元洋）</p> <p>第10回：児童・生徒の実態の把握とそれに合わせた教材の選択の重要性、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る授業設計と資質・能力の3つの柱による評価の方法（担当：長谷川元洋）</p> <p>第11回：児童生徒が問いを立て、探究的な学習を進める授業(Question Formulation Technique)（担当：長谷川元洋）</p> <p>第12回：個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業の指導案作成演習（導入の題材選定、授業目標、評価基準の策定、単元構成、本時案、板書計画の作成、空き教室での板書と写真撮影）（担当：長谷川元洋）</p> <p>第13回：指導案作成演習（本時案の完成）、発問の仕方、話し方、立ち位置等の基本的な授業技術（担当：長谷川元洋）</p> <p>第14回：模擬授業（マイクロティーチング）（担当：長谷川元洋）</p> <p>定期試験：実施しない</p>			

テキスト 小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）（PDF版）
 中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）（PDF版）
 高等学校学習指導要領解説総則編（平成30年7月告示 文部科学省）（PDF版）
 指導案作成ハンドブック 京都府総合教育センター（PDF版）
 「無理なくできる学校のICT活用」（学事出版）

参考書・参考資料等 ESDの6つの視点で働きかけ持続可能な社会を創ろうとする生徒の育成
 （令和5年9月岡崎市立新香山中学校発行）（PDF版）

文部科学省，国立教育政策研究所，教育センターの資料 など（授業内で随時紹介する）

学生に対する評価

ICTを活用した学習指導案3回 30%、ICTを活用した模擬授業（グループ協議での相互
 評価も参考にする）3回 20%

個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業の学習指導案1回 20%、個別最適な学びと協
 働的な学びを実現する授業の模擬授業（グループ協議での相互評価も参考にする）1回 30%

授業科目名：生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田誠司、石嶺(野中)ちづる
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○学校教育における生徒指導の意義と課題について理解し、教師や学校の果たす役割について説明することができる。</p> <p>○児童生徒の自己指導能力の育成を目指すための生徒指導の進め方について、いじめや不登校等の課題をもとに具体的に説明することができる。</p> <p>○学校教育における進路指導・キャリア教育の意義と課題について理解し、教師や学校の果たす役割について説明することができる。</p> <p>○進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制のあり方について自分の考えを述べることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校現場で問題になっている生徒指導上の課題について理解し、生徒指導・進路指導・キャリア教育に関する専門的知識と実践的指導力を身に付けることができるように、それぞれの意義や原理とともに具体的事例を提示し、検討していくようにする。生徒指導・進路指導・キャリア教育が教育活動全体を通じて行われる機能、領域であることを踏まえ、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に取り組んでいくために必要な知識や素養を身に付ける内容である。講義の中で、アクティブラーニングとして「模擬職員会議」や「模擬教育相談」等を開き、教職員の立場で事例等を検討する活動を取り入れることがある。</p> <p>課題として、プレゼンテーションの作成・実施を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導の意義と構造～生徒指導実践上の視点と2軸3類4層構造～（担当：和田誠司）</p> <p>第2回：生徒指導の方法と基盤～生徒理解に基づく集団指導と個別指導～（担当：和田誠司）</p> <p>第3回：児童生徒の発達を支える教育課程における指導・評価（担当：和田誠司）</p> <p>第4回：チーム学校による生徒指導体制（担当：和田誠司）</p>			

第5回：事例検討～いじめ防止、暴力行為や少年非行に対する生徒指導～（担当：和田誠司）

第6回：事例検討～命の教育と不登校に対する生徒指導～（担当：和田誠司）

第7回：事例検討～インターネットや性に関する課題等に対する生徒指導～（担当：和田誠司）

第8回：進路指導・キャリア教育の必要性和意義（担当：石嶺ちづる）

第9回：進路指導・キャリア教育の指導体制および関係諸機関との連携（担当：石嶺ちづる）

第10回：社会的・職業的自立に向けた基盤となる能力・態度の形成（担当：石嶺ちづる）

第11回：進路指導・キャリア教育の計画（担当：石嶺ちづる）

第12回：進路指導・キャリア教育の方法と技術（担当：石嶺ちづる）

第13回：進路指導・キャリア教育の実際（担当：石嶺ちづる）

第14回：生涯を通じたキャリア形成・まとめと振り返り（担当：石嶺ちづる）

テキスト

- 1 『生徒指導提要』 令和4年12月-（文部科学省、東洋館出版社）
- 2 『子どもを支える「チーム学校」ケースブック』（水野治久、金子書房）
- 3 『小学校 キャリア教育の手引き』（文部科学省、教育出版）
- 4 『中学校 キャリア教育の手引き』（文部科学省、教育出版）
- 5 『高等学校 キャリア教育の手引き』（文部科学省、教育出版）

参考書・参考資料等

『問い続ける 学び続ける 生徒指導・キャリア教育』著者 友清由希子、黒川雅幸、小泉令三編著、北大路書房

学生に対する評価

- 平常時の授業態度・意欲(50%)
- レポート課題(50%)

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：治田 哲之 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 教育相談に関わる基本的な理論や知識を学習することにより、教育現場における心の援助のための基本的な姿勢を身につけることを目標とする。			
授業の概要 この授業では、教育相談をテーマにしながら、教育現場において様々な心の問題に向き合うために必要な知識や姿勢について学習する。 幼児期・児童期・思春期・青年期の各発達段階において見られる諸問題について理解を深めると同時に、支援の方法について学ぶ。また、教育現場における社会的なニーズに応じた支援や、学校内や地域との連携なども扱う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・教育相談とはいかなるものか（学校における教育相談の意義と課題） 第2回：教育相談の歴史・支援の基本的姿勢（学校教育と心理学的援助の関係ならびに基礎的な理論・概念） 第3回：教育相談に関わる心理学の基礎理論・概念 第4回：職種や校務分掌に応じた教育相談を行う際の目標の立て方や進め方および組織的な取り組み 第5回：アクティブラーニングによる学びのテーマに関する概説／グループ編成と担当テーマの決定／グループ作業の開始 *次に挙げる6つのテーマについて、担当教員が概説し、それを踏まえて各グループで分担する A 不応適や問題行動の意味とその理解／B 学校教育におけるカウンセリングマインド／C カウンセリングの基礎的な姿勢や技法／D 教育相談に関する学校組織上の体制作りや実践例／E いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等に対する教育相談／F 教育相談における連携 第6回：グループごとに作業計画を立てる／担当テーマの理解を深める 第7回：グループごとに資料の収集及び分析を行う 第8回：グループごとに発表の準備を始める 第9回：グループごとに発表準備を完了する（発表資料の完成、発表の分担） 第10回：グループ発表会1（A 不応適や問題行動の意味とその理解／B 学校教育におけるカウンセリングマインドのテーマを担当したグループの発表と質疑応答、討論を行う） 第11回：グループ発表会2（C カウンセリングの基礎的な姿勢や技法／D 教育相談に関する学校組織上の体制作りや実践例のテーマを担当したグループの発表と質疑応答、討論を行う）			

第12回：グループ発表会3（E いじめ，不登校・不登園，虐待，非行等に対する教育相談／F 教育相談における連携のテーマを担当したグループの発表と質疑応答，討論を行う）

第13回：グループ発表会の総括とまとめおよび，分担して扱った6テーマに関する担当教員からの補足の説明

第14回：総まとめ（不応適や問題行動の意味とその理解／学校教育におけるカウンセリングマインド／カウンセリングの基礎的な姿勢や技法／教育相談に関する学校組織上の体制作りや実践例／いじめ，不登校・不登園，虐待，非行等に対する教育相談／教育相談における連携の6テーマについて，教育相談の観点からのまとめを行う）

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

授業の中で参考文献などを適宜紹介する。

学生に対する評価

教育相談に関する事柄について、グループ分担による調査、発表および討論を行う。これを60%、発表後のまとめを20%とし、合わせて80%相当とする。これに、それぞれの発表に対する他のグループの学生からの相互評価（20%相当）を評価対象とする。

教職実践演習（中高）		単位数：2単位		担当教員名：原田琢也、長谷川元洋、 橘広司、上野顕子	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 20人（4クラスで実施）					
教員の連携・協力体制 担当教員は、全員、教員勤務経験者であり、4人が連携・協力し、受講者をグループ分けして授業を行う。また、学内の教員や学外の現職教員をゲストスピーカーとして招き、合同授業を3回程度実施する。					
授業のテーマ及び到達目標 教員として必要な資質・能力である「①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係、③生徒理解や学級経営、④教科の指導力、⑤問題解決能力」を養成することを目標とする。					
授業の概要 教員として必要な資質・能力を、講義、演習、課題（教育現場の調査等）の中で養成することをめざす。これまで学内で学んできたことと、学外での教育実習等で学んだことを基に、主体的に自分の資質・能力をさらに向上させていけるよう、自己を振り返り、学生同士で議論する場を複数回設定する。ディスカッション、模擬授業等のアクティブラーニングを行い、学生間の相互評価と指導者からの評価の両方を行って指導する。その際、manabaなどICTも活用する。また、学内の教員や学外の現職教員のゲストスピーカーからは、特色ある教育活動や学校が直面している問題等を中心に講演をお願いする。それらを受けて、受講者は、各自テーマを設定して調査・考察する課題に取り組む。					
授業計画 第1回：オリエンテーション・履修科目・実習科目の振り返り・学校教育調査レポート作成のための計画書作成（担当：全教員） 第2回：「目標①使命感や責任感、教育的愛情等」に関する講義と演習（担当：全教員） 第3回：「目標②社会性や対人関係」に関する講義と演習（担当：全教員） 第4回：「目標①使命感や責任感、教育的愛情等」に関する教育現場における取り組みの講義（担当：全教員及びゲストスピーカー） 第5回：目標①～③に関する生徒指導についての教育現場における取り組みの講義（担当：全教員及びゲストスピーカー） 第6回：「目標③生徒理解や学級経営等」に関する教育現場における取り組みの講義（担当：全教員及びゲストスピーカー） 第7回：「目標③生徒理解や学級経営等」に関する講義と演習（担当：全教員） 第8回：学級経営計画書の作成演習（担当：全教員） 第9回：学級経営計画書の発表（担当：全教員） 第10回：取得見込みの免許状教科における教育実習の反省（担当：全教員） 第11回：「目標④教科の指導力」担当教科に関する模擬授業とグループ協議：学習指導方法（担当：全教員、ICT機器を積極的に活用する） 第12回：「目標④教科の指導力」担当教科に関する模擬授業とグループ協議：学習指導案（担当：全教員、ICT機器を積極的に活用する）					

第13回：「目標④教科の指導力」担当教科に関する模擬授業とグループ協議：教材（担当：全 教員、ICT機器を積極的に活用する）
第14回：「目標⑤問題解決能力」学校教育調査レポートの発表・履修カルテの完成・終了面接 （担当：全教員）
定期試験は実施しない。
テキスト 適宜、必要に応じて指示、配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 教育現場調査レポート 30%、レポート作成・発表 70%